



TITLE:

獨逸經濟學界近況(三、完)

AUTHOR(S):

米田, 庄太郎

CITATION:

米田, 庄太郎. 獨逸經濟學界近況(三、完). 經濟論叢 1918, 6(3): 425-430

ISSUE DATE:

1918-03-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127343>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷六第

行發日一月三年七正大

論說

營業稅ノ課稅標準(一)……………法學博士 神戸 正雄

經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係(四)……………法學博士 田島 錦治

實質上ヨリ觀察セル植民地ノ分類……………法學博士 山本美越乃

大阪ニ於ケル舊時ノ鹽問屋……………法學博士 本庄榮治郎

露國ニ於ケルまゝのくす說ノ發達(二)……………文學士 米田庄太郎

社會學ト社會科學(三)……………文學士 高田 保馬

我國ニ於ケル營利心ノ起源及發達(一)……………文學士 銅直 勇

時事問題

取引所外ニ於ケル定期取引(二)……………法學博士 戸田 海市

勸業銀行ト農工銀行トノ問題(二)……………法學士 河田 嗣郎

雜錄

獨逸經濟學界近況(三)…………………………米田庄太郎

米國ノ戰時租稅法(二)……………在 米 阿部 賢一

米國ノ戰時海運政策(二)……………法學士 岸本熊太郎

社會批評家トシカあらいる(三)……………文學士 石田 憲次

暴利取締令ノ適用ニ就テ……………法學博士 神戸 正雄

雜 錄

獨逸經濟學界近況 (三、完)

米田 庄太郎

わいすノ「ペー・む・ばうゐる」ノ資本利子説ニ對スル「ペー・む・ばうゐる」ノ批評」

ちいる教授ハ、ペー・む・ばうゐるノニヨリテ唱ヘラレタル資本利子ニ關スル新説ニ對シテ、寧ロ粗暴ナ批評ヲ加ヘタガ、わいすハ本雜誌ニ於テ公ニセル右ノ論文ニ於テ、ちいる教授ニ答ヘテ、ペー・む・ばうゐるノ説ヲ支持シ、而シテ彼ノ下セル批評ヲ一々排斥セント試ミテ居ル。併シ議論ハ甚ダ詳細ナ點ニ亘リ、且ツ複雑シテ居ツテ、茲ニ其ノ大要ヲ簡單ニ紹介スルコトハ困難デアルカラ、只經濟學者ニトリテ非常ニ興味アルト思ハル右ノ論爭ノ行ハレテ居ルコトヲ讀者ニ告グルダケニ止メテ置ク。

あどるふ、まいやノ「古代及ビ中世紀ノ支拂猶豫(もらとりうむ)ノ研究」

雜 錄 獨逸經濟學界近況(三、完)

本論文ノ題名ノ詳細ハ獨逸語デハ、附註ニ示セル如ク、「同時代ノ信用、經濟ノ範圍内(或ハ埒内)ニ於ケル古代及中世ノもらとりうむノ研究」トアルガ、伊太利文デハ「同時代ノ戰爭、經濟ニ對シテ見タル古代及中世紀ノもらとりうむノ研究」ト譯サレテ居ル。獨逸文ノ *Kreditwirtschaft* ト云フノガ *Kriegswirtschaft* ノ誤植デアルノカ、又ハ之ヲ伊太利文デ *leconomia bellica* ト譯シタノガ、誤譯デアルノカ、今之ヲ確カメル方法ハナイ。トニカク以下ハ伊太利文ノ紹介ヲ其ノ儘ニ譯セルモノデアアル。

今 *moratorium* 或ハ *indultum* ト云フ語ノ正確ナル意義ニ就テハ經濟學者及ビ法學者間ノ一致ハ完全デナイ。而シテ是レ、もらとりあト云フハ只君主又ハ國家ノ如キ權力者ニヨリテ、特ニ許可サレタル貨幣支拂ニ關スル債務ノ決済ニ對スル猶豫ヲ、意味スルモノト解ス可キカ、又ハ其ノ概念中ニハ債權者ノ大多數ニヨリテ認容サレタル猶豫ヲモ含ムモノト解ス可キカガ確カデナイガ爲メデアアル。第一ノ意義ハ法學者ノ中デハ

- (1) F. X. Weiss, Professors Diehls Kritik der Kapitalginstheorie von Boehm Bawerk.
(Zeitschrift fuer Volkswirtschaft, sozialpolitik und Verwaltung. XXV. 515.)
- (2) Adolf Mayer, Studien über das Moratorium des Altertums und Mittelalters in Rahmen der gleichzeitigen Kreditwirtschaft.
(Jahrbücher für Nationalökonomie und Statistik. April 1917.)

いんどしやいと及びばろん等ニヨリテ、又經濟學者ノ中デハわがなゝくに―す。ろつしや―等ニヨリテ主張セラレ、而シテ第二ノ意義ハぶりんつ・おーべんごるふ・ふえつさー等ニヨリテ認めラレ、且ツ保持サレテ居ル。併シ何レノ場合ニ於テモ問題ハ其ノ眞義ヨリハ寧ろ語義ニ關スルモノデアル。而シテ吾人ハくに―すノ說ニ從フテもらどりうむヲ設定スルノ債務者ノ利益ノ爲メカ Specialmoratorium、又ハ債務者ノ大ナル群ノ利益ノ爲メカ Generalmoratorium、何レニモセヨ、債務ノ一定ノ部類ノ一時的停止」デアルト定義スルコトガ出來ルト思フ。

今もらどりうむヲ設定スルニ至ラシムル經濟的動機ハ明白デアル。夫レハ常ニ債務者ノ狀態ニ基ツイテ起ルモノデアル。即チ債務者ノ一定ノ部類ガ不幸災害ニヨリテカ、又ハ公的生活ニ於ケル重大ナル擾亂ニヨリテ、其ノ契約ヲ履行スル能ハザル狀態ニ陥ル場合ニ、一時的ニ彼等ヲ救済センガ爲メニ、もらどりうむガ設定サレルノデアル。

まいるハ歴史派經濟學ノ大家ろつしやトノ跡ヲ追フテ古代ヲ研究シ、而シテあつちかニ於テハそろんガ彼レ自ラ詩トシテ詠ゼシ Seisachtheia ヲ以テ、一種ノもらどりうむヲ設定セシコトヲ發見シタ。ペろぼねさす戰爭ノ時ニハ同ジ施設ガ繰リ返サレ、更ニでもすせねすノ時代ニ於テハ近世の意義ニテ云フ眞實ナルもらどりうむガ施行サレタ。羅馬人ハ希臘人ヨリモ大ニ實際的デアツタトシテ知ラレテ居ルガ、往昔ノ時代ニ於テハもらどりうむヲ行フタ跡ガ見ヘナイ。最初ノ一般的もらどりうむノ行ハレタルハぢやすちにあん皇帝ノ時代ニシテ、其ノ條文ハ今日ニ傳ハツテ居ル。又ておどしうす法典第一編、第二章、第三條ノ中ニハ、こんすたんちん皇帝ノ一敕令ガ見出サレルガ、此敕令ハ羅馬ニ於テ皇帝ノ特權或ハ恩寵ニヨリテ設定サレル特別ナル「いんづると」或ハ「もらどりあ」ガ、行ハレシヤ否ヤト云フ問題ヲ、解決スルニ重要ナル資料トシテ、中世紀ニ於テモ亦近世ニ於テモ熱心ニ論議サレタルモノデアル。(Quoties rescripto nostro

praecipitum vel motorium praescriptio remittitur, aditus supplicandi panditur : quod autem totius negotii cognitionem tollit et vires principis negotii exhaurit sine gravi partis alterius expendio convelli non potest nec praescriptionis igitur peremptoriae relaxatio petatur nec contra edictum supplicetur.) 併シまゝやーノ見ル處デハ、此ノ文ハもらとりあり關スルモノデハナク。寧ロ倨傲ナル債務者ニ對シテ薄弱ナル債權者ヲ保護セントセルモノデアル。まいやーハ其ノ研究ニ於テぢやすちにあん法典及ビ新敕令 Lex quae data est pro debitoribus in Italia et in Sicilia ヲ吟味シ、而シテ古代及ビ北蠻侵入時代ニ於ケル「もらとりー」ノ研究ヲ完了スル爲メニおすどるむす時代ノ伊太利ヲ考究シテ居ル。此ノ時代ニ就テハ資料ハ分量的ニハ豊富デアルガ、併シ形質的ニハ貧弱デアル。夫ヨリ中世紀ニ移リテまいやーハへーげるト同ジク、此ノ時代ニ於テ三種ノ反動ノ起レルコトヲ認メテ居ル。一ハ世界の帝國ノ觀念ニ對スル民族ノ反動、三ハ中央

權力ニ對スル僭人ノ反動、三ハ現前ノ粗惡亂雜ナル社會狀態ニ對スル精神的勢力トシテノ教會ノ反動。教會ハ倫理の原則ノ保持者トシテ、常ニ弱者及ビ貧者ノ味方トナリ、彼等ノ困苦ト不幸トヲ減少セント努メテ居ツタ。此クテ教會ハ中世紀ニ於テハ人民ノ生活及ビ教化ニ於ケル最も重要ナル因素デアツタノデアル。

まいやーハ先ヅ伊太利及ビ佛蘭西ニ於ケル「もらとりうむ」ノ狀態ヲ研究シタル後、獨逸及ビ澳太利ニ於ケル其ノ狀態ノ研究ニ移ツテ居ルガ、彼ハ常ニ彼レ特有ノ堪能ヲ以テ議論ヲ進メ吾人ヲシテ如何ニモ彼ハ近代獨逸經濟學ノ一家デアルコトヲ首肯セシメル。

ぐるんつえるノ「商業政策的武器トシテノばいこつと」⁽¹⁾

夫レ今日ノばいこつとノ方式ハ、中世紀ノ組合ニ於テ始メテ現ハレ、而シテ愛蘭土農民問題ニヨリテ其ノ近世的名稱ヲ與ヘラレタル一社會的事實ノ復現ニ外ナラヌガ、今其ノ發現ヲ十分ニ理解スル爲メニハ、吾人ハ下ノ社會學的事實

(1) J. Gruntzel, Der Boycott als Handelspolitische Waffe. (Weltwirtschaftliches Archiv, Februar 1917.)

ニ注目シナケレバナラス。即チ人類ハ文化ノ發達スルニツレテ、益々多クノ團結ヲナシテ生活スルモノデアルガ、其等ノ團結ノ或者ハ家族ヤ民族ノ如ク自然的基礎ヲ有スルモノニシテ始メヨリ存在シテ居ルニ反シテ、他ノモノハ國家ヤ協會ヤ、社團ヤ、組合ヤ、市場等ノ如ク、文化ニヨリテ造ラレタル基礎ノ上ニ成立シ、而シテ此ノ種ノ團結ハ文化ノ發達スルニツレテ益々増加スルモノナルコトデアル。其等ノ團結ノ各々ハ一定ノ利益圈ニ結び付テ居ル。而シテ此ノ點ニ於テ自然的團結ハ感情中ニ深ク其ノ根底ヲ挿込ムト云フ利益ヲ有スルガ、文化ニヨリテ造ラレタル團結ハ理性ニ訴ヘルモノデアル。而シテ協會或ハ社團或ハ組合ナゾノ活動ノ領分ガ壓迫サレ、或ハ打破サレ難キ障害ガ其ノ上ニ加ヘラレテクル時ニ、ばいこつとガ起ツテクルノデアル。此クテ買手ト賣手トガ相對抗シ、交換ノ條件ニ於テ差異ノ生ズル市場ニ於テハ、一般ニばいこつとガ起ツテクル。而シテ市場ハ商品及ビ勞働ヨリ成立スルモノデアルカラ、ばいこつ

とニ商品ノばいこつとト勞働ノばいこつとトノ別ガ生ズル。併シ何レノ場合ニ於テモ、買手モ賣手モ共ニばいこつとサレルト云フコトハ出來ナイカラ、ばいこつとハ商品或ハ勞働ノ需要ノばいこつとデアルカ、又ハ供給ノばいこつとデアル。更ニばいこつと其物ハ連衡（フリスツツチニミテ）或ハ提携ト稱セラルル一時的ナル團結デアル。夫レヨリシテ吾人ハばいこつとノ定義ヲ下シテ下ノ如ク云フコトガ出來ル。即チばいこつとトハ商品又ハ勞働ニ關シテ買手同志ノ間又ハ賣手同志ノ間ニ於ケル市場ノ團結ガ、依テ以テ他ノ團結ヲ排斥スル其ノ協定デアル。

ぐるんつゑるハばいこつとノ歴史ヲ叙述シタル後、經濟ノ近世的諸領分ニ於ケル政治的或ハ商業的武器トシテノ方面ヨリ之ヲ考察シテ居ルガ、其ノ論ズル處ニヨレバばいこつとハ外國製商品ガ全然排斥サレル時ニハ、常ニ直接ニ效果ヲ奏スルヲ得、又外國製商品或ハ内國製商品ガ之ヲ容易ニ認識セシムル特別ナル目標ヲ有スル時ニハ、常ニ間接ニ効力ヲ有スルヲ得。ばいこつ

とハ外國ノ競争ガ斥ケラレタル時ニハ常ニ其ノ經濟的目的ヲ達スルコトガ出來、而シテ最後ニ、外國製商品ヲ斥ケルコトニヨリテ、其ノ輸出國ノ上ニ壓迫ヲ加フルニ至ルニ於テハ、其ノ政治的目的ヲ達スルコトガ出來ル。只經濟的目的ノミヲ有スル商業政策のばいこつとハ、政治的動機ニヨリテ結合サレタル獨立ナル産業的地域ガ存立スル處ニ主トシテ行ハルヲ見ル。此クテ例ヘハ愛蘭土ハ英國製ノ商品ヨリ區別スル爲メニ本土製ノ商品ニ特別ナル目標ヲ附シタ。又英領印度ニ於テハ英國ノ商業的競争ヲ斥ケル爲メニ「すわ、でし」運動ガ起ツタ。又匈牙利人ハ澳太利ノ競争ト戦ヒ、而シテつえつく人ハ獨逸商品ヨリ區別スル爲メニ彼等ノ生産物ノ上ニ *Schutz-Schein* ト云フ文句ヲ印刷スルヲ習慣トシタ。ばいこつとハ又國際的武器トシテ用ヒラレシコトモアル。而シテぐるんつえるハ其幾多ノ場合ヲ列擧シテ居ル。終リニ彼ハ戰後、協商國カ中欧諸強國ニ對シテ宣言スル疑ヒアルばいこつとニ就テ論ジ、而シテ之ニ就テ中央諸強國ハ何

等恐ル可キ理由カナイト論結シテ居ル。蓋シ彼ノ考フル處ニテハ、商業及ビ航海ノ歴史全體ノ證明スル處ニヨリテ、一國ノ内部の諸勢力ヲ完成スルコトハ外國ヨリ來ル影響ニ對シテ爭フヨリモ有益ナルモノナルコトガ理解セラレ、而シテ其ノ内部の諸勢力ノ完成ニ就テハ、中欧諸強國ハ協商國ヨリモヨリ良キ又ヨリ有利ナル狀態ニアルカラデアル。

ふいしやノ「民主主義」⁽¹⁾

ぢよるぢよ、びつふれど、げるぢいぬす (*Giorbio Goffredo Gerinus*). ハ千八百五十三年ニ公ニセル第十九世紀ノ歴史ノ序論ニ於テ、歴史ノ運動否ナ歴史其ノ物ノ法則ハ諸國民ヲ民主主義ニ推シ進メルモノナルコトヲ主張シタ。而シテ之レガ爲メニ彼ハはいでるべるひ大學ノ教授ノ職ヲ奪ハレ後裁判所ニ告發セラレ、彼ノ著書ハ沒收サレタ。併シ吾人ノ生存スル今日ノ時代ハげるぢいぬすノ思想ノ正當ナルコトヲ充分ニ證明シテ居ル。文明國民ニアリテハ、中世紀ノ終リ頃ヨリ今日ニ至ルマデノ總テノ時代ハ民主主義思

(1) E. Fischer, Demokratie. (Die Neue Rundschau. mähr 1917).

想ノ爲メノ大ナリ小ナリ明白ナル奮闘ノ連續ニ外ナラス。殊ニ第十九世紀ノ始メ頃ヨリシテハ、民主主義的運動ハ多數民衆ノ本能的要求ニヨリテ愈々進ンデ來タ。平等及ビ自由ニ對スル奮闘ハ各箇人ノ心ニ自己ノ威嚴ノ感情ヲ増大セシメタ。而シテ政治的平等ハ民意ノ支配ヲ含蓄スルモノ即チ民主主義ノ支配ヲ意味スルモノデアアル。かゝる、まゝゐるゝハ歴史の發達ノ法則ニ於ケル經濟的基礎ヲ發見シタ。彼ノ唯物史觀ノ見解ニ從フテ歴史ヲ考察スレバ、一切ノ社會的及ビ經濟的革命ノ最後ノ動機ハ、人間ノ智力思想ヤ、又ハ永久ノ正義及ビ眞理ナゾニ於テ求メラル可キモノデナク、生産及ビ交換ノ變動ニ於テ求メラル可キモノデアアル。サレバ之ヲ時代ノ哲學ニ於テ求メントスルハ、大謬見ニシテ、ヨロシク時代ノ經濟ニ於テ之ヲ求ム可キモノデアアル。歴史ヲ動カスモノハ思想ニ非ズシテ利益デアアル。資本主義及ビ生産ノ資本主義的形態ハ、人民ノ大多數ヨリ生産手段ヲ奪ヒ去リ、此クテ同一ノ利益ヲ有スル多數ノ「ぶられたりあ」ヲ產

出シタ。ソコデ「ぶられたりあ」ハ自己ノ利益ヲ防衛スル爲メニ、政權ヲ獲得セント大ニ奮闘シ、而シテ今ヤ多數者トシテ彼等ノ意志ヲ社會ノ上ニ推シツケント努メツツアルノデアアル。ふれでりく、えんげるすが或書簡ニ於テ述ベシ如ク、思想ト物質的利益トハ相互ニ補充シテ進動スルモノデアアル。民主々義ハ單ニ經濟的發達ニ附隨シテ器械的ニ發達スルモノデナイ。多クノ歐洲諸國、例ヘハ「のるうえー」、「でんまーく」、「すうえーでん」、「ほらんど」、「すゐつえらんど」、「ふらんす」等ニ於テハ、工業的ニ彼等ニ勝レテ居ル獨逸ニ於テヨリモ、民主々義ハ遙カニヨク發達シテ居ル。而シテ獨逸其ノ物ニ於テモ工業的ニハ北方諸國ハ南方諸國ヨリモ大ニ勝レテ發達シテ居ルガ、併シ民主々義的ニハ南方諸國ハ北方諸國ヨリモ多ク進歩シテ居ル。此ノ事實ヨリシテ僞而非まゝゐるゝ主義者ハ下ノ如キ結論ヲ引キ出シテ居ル。即チ生産ノ資本主義的形態ノ發達ト平行シテ必然的ニ、反動的ナル政治的發達ガ行ハレル、是レ反動的ナ

ル政治的發達ハ支配階級及ビ資本家ノ利益ガ當然要求スルモノデアルカラデアアル。併シカカル解釋ハ、ツマリ思想ト物質的利益トノ相互補充的發達ノ理ヲ解セザルヨリ起レル謬見デア
ル。(完結)

大正七年一月五日